FUKUSHIMA YUME-TSUSHIN　2025 APRIL

市民フォト

ふくしま夢つうしん

福島市
60
2025年4月

CONTENTS

特集
県庁通りクラフトモールが熱い!! …2

ふくしまの魅力人
オノデラ百貨店代表
小野寺 大樹さん …6

インフォメーション
ふくしま花回廊SHU×YUデジタルラリー
まちなかこどもの日 …8

特集

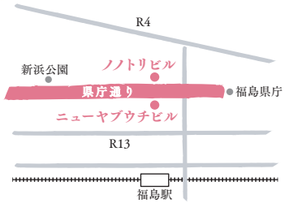
見て、聞いて、知るほど好きになるお店が並ぶ県庁通りクラフトモールが熱い!!

「県庁通り商店街」は近年、珍しいトラス構造を生かしたアーケードのリノベーションを実施しました。商店街を工房街（クラフトモール）に見立てて、「県庁通りクラフトモール」と名称も刷新。2024年には老舗（しにせ）の文具店がリニューアルオープンしたり、リノベーションをしたビルに花屋、カフェ、アパレルショップが揃ってオープンしたりと目が離せません。個性的なショップを目当てに、東京や近県から訪れる方も増えています。

今号では、通りの一角のニューヤブウチビルでメガネ屋を経営しながら、「どうしたら街が楽しくなるか」を考え続けてきた藪内義久さんに、話を聞きました。

藪内（やぶうち） 義久（よしひさ）さん

1979年生まれ、県庁通商店街振興組合 副理事。
有限会社 藪内時計店 代表取締役



自社ビルを小さな街に見立ててセルフリノベーション

5代目となる僕で、店は今年150周年を迎えます。ニューヤブウチビルと、はす向かいのノノトリビル※が今の形になったきっかけは、24年前にさかのぼります。

両親が1階でメガネ屋を営んでいた頃のニューヤブウチビルは、2階にスナックと美容室、3階に雀荘（じゃんそう）とエステ店が入っていました。皆さんが退去した時に、父から「お前に任せるから」と言われたんです。セルフリノベーションは、正直大変でしたが、面白かったことを覚えています。スナックだったところを漆喰（しっくい）の壁に改装して、自分のメガネ屋をオープンしました。でも、軌道に乗せるのが難しく、気持ちが落ち込み始めたんです。そのとき、師匠のように思っている友達に、「遊びは楽しく、仕事はしっかりって思ってるでしょう。逆だよ。遊びはしっかり、仕事は楽しくやらないと。」と言われて、目からウロコでした。それから「ビルの中にちっちゃい街を作ってみよう」と考えるようになったんです。ポジティブ思考ですね。テナントを誘致するには、かっこよくないと来てくれない。自社ビルをちっちゃい街に見立ててリノベーションしたらいいんじゃないかと。

かっこいい風景を本気で今作らなかったら街の未来はない

ニューヤブウチビルをリノベーションしたら、2店舗入ってくれました。東日本大震災以降は、店舗の出入りがあり、空いたフロアを眺めながら「何をしたら楽しいか」「福島に何があったらいいのか」考えました。信頼できる大工さんとの出会いもあり、2014年には花屋「Total Plants bloom（トータル プランツ ブルーム）」が入ってくれて、2016年には「食堂ヒトト」を誘致しました。昨年、花屋がノノトリビルに移り、入れ替わりで「本と喫茶 コトウ」を誘致しました。

ノノトリビルは、2023年に購入を決めました。長くリノベーションを続けていると、僕の中で理想の風景が見えてくるんですよ。若い人たちが、「福島にかっこいいところがある」「ここでお店を始めたい」と思えるような街を、今僕らが本気で作らなかったら未来はないと思いました。この通りって、昔は目抜き通りで、路面電車が走っていて、一番活気あふれるところだったんです。その風景をもう一度、父に見せたいという気持ちもありました。

テナント誘致交渉は夢と可能性を語り合う時間

ノノトリビルの1階と2階は物販、3階はクラフトマンたちの工房、4階はうちの工房。工房では、ここでしか買えないものを作って、ビルのカーポートで販売して、お客さんがお客さんを呼ぶ。そんな青写真を描いていたので、テナント誘致の話をしに行くのは楽しかったですね。苦労したのは、電気や水道など設備の改修です。もともと銀行が入っていたビルなので、建物の強度は十分でした。店舗の正面のデザインは、僕が考えていて、現在、ノノトリビルには6店舗が入居しています。

専門店が多いクラフトモール小さな物語仕立てにして歩く

僕は、この通りがますます人が集まる良い場所になっていく予感がしています。家業を継いだ人たちはみんな若いし、先輩方が良き理解者というのも大きいです。商店街として何ができるか、今みんなで話し合っているところです。

福島市は、手が届くところにいろんな人がいます。特に県庁通りクラフトモールは、専門店が多いので、店主がそれぞれ考えを深く掘り下げていて、何を聞いても答えてくれる心地よさを味わえます。楽しいお店も増えています。食事の後に本屋、カフェ、花屋、服屋、文房具屋と巡りながら、小さなストーリーを楽しめるようになってきています。歩くと絶対に面白いと思います。ぜひ、お出かけください。

OPTICAL YABUUCHI（オプティカルヤブウチ）

デザイン、品質はもちろん、ものづくりに対する考え方など、全てにおいて私たちが感動したメガネを提供しています。その一つが、「10 eyevan（テン アイヴァン）」です。「美しい道具は美しいパーツの集合体である」という考えのもと、10種の特別なパーツで構成されています。例えば、頭が六角星のネジ、蝶貝のノーズパット、シルバーのバランサーエンドチップなどが使われ、ジュエリーに近いようなメガネです。

ディスプレイは、メーカーさんが何をしたいのかを汲み取り、商品のポテンシャルを最大限に引き上げるよう努めています。店内には古い家具が多いのですが、古いものをきれいに使うのも好きかもしれないですね。メガネ屋らしくないメガネ屋を目指しています。

※2023年に購入しリノベーションしたビルの名前。「野の鳥」の意。

訪ねた店のことを誰かに話したくなるストーリージェニックなショップが待っています。

食堂、ギャラリー、書店、アパレルショップ、カフェ、花屋…それぞれに背景があり、物語を持っていることを知ると、さらに好きになってしまう小さな街が、2つのビルの中に広がっています。ぜひ、店主とお話しながら豊かな時間を過ごしてください。

LAPEL（ラペル）

LAPELは、紳士服と婦人服の国内外のセレクトショップです。これまで15年間文化通りで店を構えていましたが、この度ノノトリビルのオープンとともに移転してきました。

国内のメンズ、レディースのブランドの服やバッグ、小物、シューズに加え、イギリスやフランス、ドイツなど海外のブランドも取り扱っています。「多目的」をテーマに、クオリティや機能の高い服からファッション性の高いブランド、古着までその時の気分や出会いで常に変化、進化していき、お客様に楽しんでいただけるような店作りを心掛けています。

FULLER（フラー）

FULLERは、オルタナティブなスペースとして2024年10月にオープンしました。「目の前の世界を見ながら　そこではないどこか　今ではないいつかの光景」をテーマに、作り手を招いた展示を毎月開催しています。

また、常設では日々の日用品をご提案しています。大和田友香（おおわだゆか）さんの器、IYE（イエ）のお香、The terrusse（ザテラス）のタオル、MAYUMI MURASAWA（マユミ ムラサワ）やneutral（ニュートラル）のジュエリーなどが人気です。

足を運んでくださった方々に、そのときの記憶や、そのとき漂う香り、余韻を持ち帰っていただけるような空間づくりを心掛けています。

食堂ヒトト

玄米とお野菜の優しい定食とお菓子のお店です。つくり手の方々が大切に想いをかけてつくるお米、お野菜、果物。伝統的な製法でじっくりと時間をかけてつくられる調味料など、からだをほっとさせる豊かな素材を使っています。

お菓子は、喜多方の小麦や自家栽培の大豆からつくるお豆腐など、信頼する生産者さんの食材をメインに、素材の味わいがじんわりと感じられる美味しさを大切につくっています。つくり手の方々の息づかい、その土地の風土を感じるお料理をヒトトの空間でゆっくりと味わっていただけたらと思います。

本と喫茶 コトウ

新刊本と古本を販売する本屋です。エッセイ、小説、絵本、写真集、美術関係など、さまざまなジャンルの本を並べています。小さな出版社の本や、「ZINE（ジン）」や「リトルプレス」と呼ばれる個人発行の本も取り扱い、普段は見かけることのないような本とも出会えると思います。

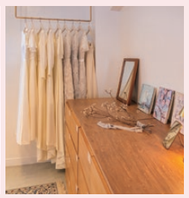
古本は個人買取りもしており、不要になった本を新たな持ち主に繋いでいます。本の他にも、伝統こけしや郷土玩具の買取り・販売もしています。喫茶営業もしていますので、お気軽にお立ち寄りください。

【ノノトリビル】

2F	LAPEL	*Chayuka*	
1F	Total Plants bloom	FULLER	cafe nei

【ニューヤブウチビル】

3F	食堂ヒトト	OOMACHI GALLERY
2F	本と喫茶 コトウ	
1F	OPTICAL YABUUCHI	



Chayuka（チャユカ）

私たちは専属の会場をもたないフリーランスのウェディングプランナーです。「生まれた街を愛するウェディング」というコンセプトを中心に、県内・隣県を拠点に活動しています。文化財、古民家、旅館、カフェ、ペンション、キャンプサイトなど、普段は結婚式をしない場所で、ふるさとのもの・人・食を大切にしたウェディングのお手伝いをしています。

結婚式をしない方も多いこの時代に私たちに出会ってくださった２人には、結婚式の準備を通じて、これからの人生がもっと豊かになるような経験をしていただきたいと思っています。

挙式・衣裳・写真・着付・ヘアメイクがセットになった神社挙式プランもあります。ぜひ一度遊びにいらしてください。

cafe nei（ネイ）

特に意識しているわけではないのですが、私たち自身、気取らず自然体でお店に立っています。気分転換にコーヒーでも飲みに行こうかな。今日は何もしたくないから昼からワインを飲みに行っちゃおう。お家でのんびりするためにおやつを買いに行こう。なんていうふうに、ふらっと寄ってもらいたいなと思っています。

自家製のハムときゅうり、香草マヨネーズを挟んで仕上げたサンドイッチや、全粒粉のタルト生地にカスタードを流し込み低温で焼き上げた、なめらかでさっぱりとしたケーキのタルトフランなどが人気です。どれも素材の風味を活かしシンプルに構成しています。

小さなお店ですが、平日は比較的すぐにお席へご案内できます。ドリンクやサンドイッチ、ケーキなどのテイクアウトもできますので、気軽にお越しください。

Total Plants bloom（トータル プランツ ブルーム）

お花を贈る楽しみや、お花をもらう方の喜ぶ顔を想像して、花のセレクトをしています。また、日常生活の中の花やグリーンは心を豊かにし、楽しくしてくれるインテリアの一つ。そんなことを考えながら、お客様の要望に応えるフラワーアレンジメントや花束、グリーンの提案をしています。

Total Plants bloomは、2024年８月に、大町のニューヤブウチビル２階から、道路向かいの上町にできたノノトリビル１階に移転しました。１階に移り足も運びやすくなりましたので、皆さまのご来店をお待ちしています。

OOMACHI GALLERY（オオマチギャラリー）

OOMACHI GALLERYはオープンしてから８年目を迎えようとしています。これまで絵画のみならず、木工作品や陶器、鞄やバッヂなど、さまざまな作家の展示をしてきました。企画をするにあたり、県内で活動している作家だけでなく、東北では観る機会のなかった第一線の作家など、「自分の住む街で観られると思わなかった」と皆さんに喜んでいただけるよう、ジャンルが偏らないよう心掛けています。

日常に少し好きなものがあるだけで、日々の暮らしはとても豊かで楽しいものになります。アートを少しでも身近に感じてもらえるきっかけを提案できる場になればよいなと思っています。展示は無料でご覧いただけるものがほとんどですので、ぜひ気軽に足を運んでみてください（不定休、企画があるときのみ開けています）。

ふくしまの

魅力人

みりょくびと

Hiroki Onodera

約30年前まで、飯坂温泉のほぼ中央にあった小野寺百貨店は、小野寺大樹さんの実家です。幼馴染みの家が軒を連ねていた風景が消えていく様を見るにつけ、空き店舗になっていた実家だけでも残したいと考えるように。コロナ禍に一大決心をしてリノベーションに奔走。一昨年、念願のカフェ×コワーク×福祉を融合させた交流の場「オノデラ百貨店」をオープンさせました。夢を叶えた小野寺さんに旧店舗の話、新店舗に込めた思い、お店のこだわりなどを伺いました。

1階カフェスペースは、店の変遷を見守るシンボリックな太い柱を活かしてリノベーション。

薬剤師
有限会社 ネットワーク調剤 代表取締役
オノデラ百貨店 代表

小野寺（おのでら） 大樹（ひろき） さん

1980年、青森市生まれ。実家の小野寺百貨店を父が継ぐことになり、幼少期に福島市飯坂町へ。以後、子ども時代を飯坂温泉街で過ごす。バブル景気終焉（しゅうえん）後、薬剤師の資格を持つ父が、百貨店を閉じ薬局と介護の事業を始める。2003年、父の勧めで自身も薬剤師の資格を取得。製薬会社勤務を経てネットワーク調剤に入社。その後、代表取締役に就任。2021年、空き店舗になっていた実家を蘇らせたいと「まちなかリノベ塾」（福島県主催）を受講。2023年にオノデラ百貨店をオープンさせる。

温泉街で働く人たちが来店し 世間話で盛り上がった百貨店

オノデラ百貨店は、福島交通飯坂温泉駅から歩いて約7分。飯坂ホテルジュラクの向かい側にあります。店は、大正末期に小野寺さんの曽祖母（そうそぼ）が創業したのだそうです。子ども心に覚えている昔の様子を尋ねると、こんなふうに話してくださいました。

「旅館に、タオルや衣料品など、今でいうアメニティを届けていました。お店のお客様は、大半が温泉街で働く従業員さん。以前は、海外の方もたくさん働いていて、化粧品や婦人服なども扱っていました」。人が集まるといろいろと楽しいことも起きるのだとか。「突然、英会話教室や母国の激甘ケーキの講習会が始まったり、ご近所さんも加わってゲームに興じたり…。景気も良かったし、人もたくさんいて。おおらかな時代でした」。

第40回　インタビュー

カフェ×
コワーキングスペース×福祉
集まって楽しいコトして
幸せになろう！

コロナ禍にリノベーション 苦労より夢の方が勝（まさ）っていた

バブルが弾け一気に不景気になった時、安定した暮らしを求めた父が、百貨店を閉じてネットワーク調剤を立ち上げ、薬局と介護の仕事を始めたのだそうです。時が過ぎ、小野寺さんはネットワーク調剤の代表取締役に就任しました。その際、心を痛めたのが空き店舗になっていた実家のことでした。「曽祖母、祖父、父と3代にわたって、地域の方にご愛顧（あいこ）をいただいた店なので。更地にしてしまうのではなく、以前のようにいろいろな人が集まってきて交流できる空間にできないかと考えました」。

2021年、福島県主催の「第3回まちなかリノベ塾」に申し込み、準備を整えていよいよ改修工事という矢先、ウクライナ危機が起きました。建築資材が高騰し、着工も半年から1年ずれ込んだとのこと。その間の資金繰りや雇用では、大変苦労したそうです。しかし、小野寺さんは、苦労よりも夢を叶える期待の方が何倍も勝っていたと振り返ります。

人が集う百貨店。就労支援事業所と連携したメニューも

新しくなった百貨店のテーマは、新レトロです。「あえて昔の名前を使うことで、思い出して来てほしいという気持ちを込めました。一方、新鮮さも届けたくて『オノデラ百貨店』とカタカナ表記に。内装は写真映（ば）えも意識しました」。さらに、本業で介護事業も展開していることから、福祉の視点も持たせたそうです。

いつも地域と共に在（あ）ることを願う1階のカフェスペースでは、地元の果物を使ったパフェやドリンクだけでなく、就労支援事業所と連携したジェラートも提供しています。2階のコワーキングスペースは、個室や会議にも使える広いスペースのほか、和室もあります。「2階は、フラットな空間にしてあるので、マルシェみたいなイベントに使っていただくことも多いです。それと、お客様がここから温泉に行けるように、うちのオリジナルイラスト入りの風呂桶やタオルも作りました（笑）」。

2階のコワーキングスペースは、電源・Wi-Fi完備。
1時間300円。年中無休

もっと素敵にもっと楽しく ここで起業する人を増やしたい

大きな夢を叶えた小野寺さんに、次の目標を尋ねると「飯坂に人が集まり、面白いつながりが育（はぐく）まれていく中で、『オノデラ百貨店があったおかげで起業できました』みたいな人たちが増えたらいいなと願っています」と話してくださいました。

飯坂温泉には近年、おしゃれなカフェやシェアキッチン、雑貨屋、レンタルスタジオなど、素敵なお店が生まれています。ぜひ、オノデラ百貨店を起点に巡ってみてはいかがでしょうか。

花回廊スポット 観光スポット 飲食店 ふくしま三名湯 を巡ってスマホでスタンプをGET！ 豪華賞品を当てよう！

抽選で **1,129名様** に当たる！＋ Wチャンス 5名様

巡って当たる！

ふくしま地酒賞	ふくしまスイーツ・プレミアム賞	ふくしまグルメ賞
3,000円相当 300名様	3,000円相当 300名様	3,000円相当 429名様

泊まって当たる！

Wチャンス

宿泊スタンプを1つ以上取得した方 ふくしま三名湯賞	宿泊スタンプを3種類全て取得した方 ふくしま三名湯宿泊特別賞
宿泊補助券 10,000円分 100名様	ふくしま満喫セット 20,000円相当 5名様

参加方法

LINEから参加登録

詳しくはこちら▶

QRコードを読み取り、スタンプを集めよう！

花回廊スポット・観光スポット
各スポットで花回廊・観光スタンプをGET！

飲食店
飲食後、お支払い時に飲食スタンプをGET！

三名湯宿泊施設（飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉）
客室で宿泊スタンプ（宿泊手形）をGET！
さらに花回廊・観光スタンプもGET！

花回廊・観光スタンプ、飲食スタンプを4つ集めて応募！
※4つのうち2つ以上花回廊・観光スタンプを取得することが応募の条件です。

応募期間中に宿泊スタンプを取得していると、ふくしま三名湯賞の抽選対象に！

※QRコードは、㈱デンソーウェーブの登録商標です。
※LINEおよびヤフーロゴは、LINEヤフー株式会社の登録商標です。

問観光交流推進室　TEL 024-525-3722

まちなかこどものひ with 街なかテーマぱーく

ステージショーや街なか高原列車など、子どもたちが楽しめるコンテンツがいっぱい！５月５日は、家族みんなで福島市の街なかへお出かけください！

街なか高原列車　エアー遊具　メロディーバス

市民フォトグラファー半沢剛司さん撮影

とき 5月5日（月・祝）10:00～16:00

ところ 福島駅周辺エリア

内容は変更になる場合があります。
詳しくは市ホームページをご覧ください。▶

問にぎわい商業課　TEL 024-525-3720

市民フォト・ふくしま夢つうしん

2025年4月1日発行　2025年4月号 No.60

編集発行 福島市広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
TEL 024-525-3710　FAX 024-536-9828
E-mail：kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

夢つうしん バックナンバーは市ホームページで！

福島市公式SNS

表紙紹介

県庁通りでショッピング

県庁通り商店街には、店主のこだわりが詰まった個性的なお店が立ち並びます。そこには、ワクワクする素敵な世界観やここにしかない出会いが。あなたのお気に入りの一軒が、きっと見つかります。

※次号は2025年7月発行予定です。